

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームほっとステイ万葉の里
所在地 (県・市町村名)	栃木県佐野市栃本町3128-5
記入者名 (管理者)	堀越 澄子
記入日	平成 21 年 10 月 20 日

(様式 1)

事業所名:ほっとステイ万葉の里

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・理念の中にある「やさしく、ゆっくり、より添って」を3Yケアと称し、ケアの心がけとして、周知している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念を共有できるように、施設内のあちこちに掲示している。また、日頃のミーティングの中で利用者様のケアの方向性を話し合うときに理念を持ち出すこともある。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・施設としてではなく、1世帯として接しているつもりである。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・ホームの前を散歩などで通られる方々に、日常的に挨拶をしている。 ・玄関のプランターに草花をうえて、明るい雰囲気でお客さんを迎えられるよう対応している。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会に加入し、地域の草取りや会所の掃除、お祭りなどの行事に参加するようにしている。 ・冠婚葬祭の付き合いもしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・ボランティアの方々の催しがあるときは、隣近所に声掛けをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		○	・自己評価・外部評価の意義は理解している。が、項目ごとの話し合いの時間は持っておらず、外部評価での指摘部分について発表するのみになっているので、詳しく検討する時間を作っていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		○	・今回の外部評価の結果について、運営推進委員会にて報告し、意見を聞き入れ、サービスの質の向上につなげていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	・いまの所、特別に行っていることがないので、もっと連絡・相談を密にしていき、市との距離を縮めていきたいと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・現在の利用者様の中で、必要性のある方は居ない。 ・職員には、研修の案内等を回覧や掲示にて紹介をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用者様のケア上、虐待については十分に注意を払い話し合いはしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・利用者様やご家族様の意見に耳を傾け、一方通行の話にならないように気をつけている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・利用者様の意見には常に素直に受け入れ、職員間で話し合いをして、いい方向性を導く努力をしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・月に1回は利用料の支払いに来てくれているので、その機会に、金銭の説明や、健康状態、生活の様子などを話すようにしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・投書箱の設置、受付窓口・責任者等を文書で明示し、ご家族に伝えている。また、月に1回支払いに来ていただいている機会にご家族の方の意見を聞くようにしている。</p> <p>・意見に対しては職員で共有し、話し合いをしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・日頃から、何でも意見を言える関係作りをしている。</p> <p>・意見に対しては、真剣に対処し、応えるようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・職員の柔軟な協力体制への意識は出来ている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・自然に打ち解けられるよう周りの職員が配慮するようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の資質の向上に関しては理解しているので、研修等の案内など周知を図っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・県のグループホーム協会に加入している。また、市内のグループホームとの交流もあり、「また花見の機会を持ちたいよね。」と、言ってくれている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員同士の親睦会を年2回行っている。 ・毎月のように行われる事業所の行事の企画は大変であるが、利用者様たちと共に楽しみが実感できてストレスの緩和になっていると思う。 ・職員の勤務に無理がないように気を配っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・職員の良い所は、認めている。 ・「上の資格を目指したら。」みたいな言葉掛けをしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ご本人にグループホームに来ていただき、雰囲気味わってもらい、納得していただくようにしている。 ・直接面接を行い、話を聞く。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ご家族の話を受けとめ、入居にいった場合は、職員間の情報の共有に努める。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	・ご本人、ご家族の希望がグループホームの環境と暮らしぶ り支援に添えるかどうか検討し、添えない場合は、他の手段 と一緒に検討する。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	・入居前にショート利用しながら馴染みの関係作りができるよ う、短期利用共同生活介護の指定を受けている。 ・ご家族から生活習慣などの情報を得ると共に、ご家族と共 に環境作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者・職員みんなで家族を構成していることや、共同生 活の場でお互い助け合って生活する所であることを話し合い の場で言っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	・家族との面会、外出はいつでも自由に受付けており、親戚 の家に出かけたり、受診に付き添ってもらったりしている。 ・帰宅願望が強いときは、ご家族に協力していただき、電話 をかけご本人に納得していただく。 ・行事等に参加を促している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	・ご家族の訪問があったときは、利用者様と一緒に出迎え、 和やかに会話が出来るように職員も少しは関与したり、家族 だけの場を設定したりしている。 ・ご家族の帰られる時は利用者様と一緒に見送るようにして いる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	・利用者様のとのコミュニケーションの話題にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	・みんなで集えるスペースを設定しており、レクなどを行うとき は声掛けをして、みんなとなごやかにできるよう努力してい る。但し、無理強いはいはしないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	○	<p>・毎日の生活の中で、身体的変化・精神的変化が見られれば、ご本人の話聞き、職員間で話し合い、又ご家族にそうだんしたりして、対処してしまうケースがある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・記録は、個別の経過記録と身体観察記録の記入をしている。 ・情報の共有として、ミニミーティングノートや受診ノートの記録をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・帰宅願望が強いとき、ご本人の意向に沿って外出したり、ご家族の都合によって買い物をしたり、受診に連れて行ったりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・美容師や踊りや歌・かたりべのボランティアさんなどに協力してもらい整容や文化に触れる支援をしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	・いまの所、対象者はいない。 ・必要に応じて、他のサービスにつなげる支援をしていきたいと思う。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括支援センターの職員に運営推進会議に出席していただいている。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・医療機関とご家族との連絡を密にし支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・居室への出入り、たんすの開け閉めなどご本人の確認を取ってから行動している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・何でも本人の意見を聞きながら行動している。 ・本人の意見がこちらの意向に合わないときは時間を見計らったり、違う人が声をかけたりして気の変わる機会を待つ。 ・それでも駄目な時は諦める。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・生活暦など、ご本人やご家族から得た情報を参考にし、ご本人の生活スタイルを尊重するようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・カットはボランティアで美容師さんたちが来てくれ、ご利用者はみんな楽しみにしている。 ・散歩に出かけるときは帽子をかぶり、受診や買い物などに出かけるときは着替えたり服装を整え、気分を変えるようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の前にみんなでリハビリ体操や口腔体操をするときみなさん楽しそうに行っている。 ・食事は職員も同じテーブルにつき会話しながらいただく。 ・後片付けは率先してやる人、しょうがなくやる人というが、職員は感謝の声掛を忘れない。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・買い物に同伴し、各自の好きなものを買ってきて、食べたり、ご利用者に分けたりしている。 ・行事の際、希望によってお酒を出したこともある。 ・ご家族と外出し、飲酒してくることもある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄の失敗がないように、気配りするようにしている。 ・声掛け誘導にて失禁の回数を少なくし、さっぱりした状態でいられるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・1日おきの入浴が多いが、汗をかいたり、ご本人の希望があったときなど柔軟に対応している。 ・1日の中で入浴のだいたいの時間帯は決まっているが、排便の失敗があったときなども柔軟に対応している。 ・入浴中に音楽をながしたり、ゆず湯にししたりと入浴を楽しめる雰囲気作りにも配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・散歩にでかけたり、体操をしたり、食事の下膳をしたり、昼間なるべく活動してもらうようにしている。 ・みんなの居るソファや畳の上、冬は炬燵にもぐって休む人も居る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・居室に洗濯物が干せるように工夫しており、自分のものは自分で管理できるようにしている。 ・食後の下膳や後片付けなどの役割も無理のない範囲でやってもらっている。 ・日々の過ごし方は、ご本人の意思が中心であるが、楽しい時間が共有できるよう個別ケア担当が工夫するようにしてい		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		○	・トラブルの原因になる可能性を心配し、職員が管理してしまっている。が、お金の支払い時に、ご本人にお金を渡し支払ってもらうようにしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・買い物に職員が出かけるときに、ご利用者にも声かけするようにしている。 ・週に2・3回は散歩している。 ・花見などの行事や外食に出かけることもある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・親戚の家などご家族が連れて行ってくれている。また、お正月やお盆なども迎えに来てくれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご本人の希望があれば職員がダイヤルして話をしてもらっている。・ご本人に書いていただき、ご家族に年賀状を出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・来客は曜日、時間を問わず何時でも受け入れしています。 ・職員も来客を歓迎し接待します。他のご利用者も来客大歓迎と一緒に会話をしたりしています。 ・プライベートへの気遣いにて居室で談話してもらったりもしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の必要性を感じていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中、居室や玄関の鍵をかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・利用者1人ひとりに目配りし、所在や行動の把握をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・保管、管理の取り決めをし、状況に応じ、ご利用者と一緒に針やはさみ、包丁を使ったりしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・利用者1人ひとりに目配りし、所在や行動の把握をしている。 ・食事は職員も一緒にテーブルに着き窒息や誤飲の無い様、注意をしている。 ・夜間、また火を使わないときは、ガスレンジのロックをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急時マニュアルを作り、職員に周知を図っている。 ・救命救急の研修を年1回消防署に依頼して実行している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		○	・地域の方たちに協力が得られるような関係作りをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・入居の際、説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・早朝、就寝前のバイタルチェックや体重測定、毎食の食事量チェックにて健康状態の把握をしている。 ・異変を感じたときは、看護師に相談し、医師や家族に報告・相談する。その内容は、職員同士で共有するようにする。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・受診ノートの服薬の変更等の記録で確認をしている。 ・処方箋も個人のファイルにつづり、必要に応じ確認できるようになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・10時のお茶時に牛乳を出している。飲めない人にはココアを出している。 ・散歩を毎日の日課にしており、雨などの天候に応じて室内でリズム体操をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、歯磨きの支援をしている。 ・歯磨き後、イソジンガーグルでうがいの支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量のチェックをし、量の少ない人への対応として栄養価の高いゼリー状の飲み物を提供している。 ・水分が気になるときは、ポカリスエットやコーヒーなど本人の好きな飲み物を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症予防の為にマニュアルがあり市からの通達書類などは回覧にて周知を図っている。 ・インフルエンザの予防注射を家族の了解の元で実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・台所、調理道具などの衛生管理を行っている。 ・肉や魚、野菜など毎日新鮮な食材を、提携しているスーパーが届けてくれるので、安心である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関のプランターに草花を植え、明るい雰囲気でお客様を迎えられるようにしている。 ・職員の手作りの表札を掲げている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・壁面や花を季節に合わせて入れ替えしている。 ・冬は炬燵を作り、ご利用者もくつろぐ。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・玄関先のベンチ、玄関に入った所の対面のソファ、居室、畳のところの炬燵、TVの前のソファ、食卓と気分に応じて移動できるよう配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・TVや家具の持ち込みは自由で家具の配置などは家族に任せている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・夏、冬問わず、換気には気を配っている。 ・室温調節なども利用者の状況におうじてこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・買い物や散歩、家事など、日常生活の中で楽しみながら機能の低下の抑制に努めている。 ・買い物や散歩の際は安全確保のため、参加者の人数や状況に応じて、支援者を2名にしたり、2回に分けて出かけたりしている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・自分で出来る力を持っていても、依存しがちな人に、なんとか自分で出来るようにお膳立てしたり、声かけて行動を起こすのを待つ。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ベランダにベンチを置き、外気浴や日光浴を楽しめる。 ・中庭にテーブルといすを並べ、おやつをみんなでいただき楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・グループホームがご利用者にとって「安らぎとくつろぎの場」だと感じてもらえるような、物的環境と人的環境を作りたい。そして、自立支援を基本にしていきたい。